

2025年7月

- 3日 豊中こども財団 幼児教育・乳幼児保育懇談会
- 7日 2025原水爆禁止国民平和行進 ※
- 11日 広報委員会 ※
- 16日 姉妹都市サンマテオ表敬訪問・オープニングセレモニー ※
- 17日 サンマテオ市国際交流プログラム「市議会意見交換会」
- 18日 豊中市万博国際交流プログラム歓迎交流会
- 21日 豊中市万博国際交流プログラム学習成果物発表会
- 22日 2025 非核・平和行進出発式 ※
北摂市議会議長会 ※
- 24日 議会改革等検討委員会・幹事長会 ※
- 25日 豊中つばさ公園「ma-zika」内覧会
大阪広域水道企業団議員全員協議会 ※
- 26日 熊野田サマーカーニバル
- 27日 おかまち・さくらづか夜店大会
- 28日 関西若手議員の会 オンライン研修会
- 30日 大阪府後期高齢者医療広域連合議会 ※
- 31日 総務常任委員会視察（群馬県前橋市） ※



2025年8月

- 1日 総務常任委員会視察（東京都千代田区） ※
- 2日 前向きサロン（市政報告会）
- 3日 第81回大阪府消防協会豊能地区支部消防訓練大会
- 4日 広報委員会 ※

収支報告

2025年7月～9月分

収入	
議員報酬	¥2,070,000
合計	¥2,070,000
支出	
所得税	¥190,920
議員団費	¥9,525
事務所費用へ	¥900,000
生活費	¥979,080
合計	¥2,070,000

（注1）イベント参加費・カンパ など
（注2）勉強会参加費など



神原事務所 2025年7月～9月分

収入	
前月繰越残高	¥2,845,675
神原宏一郎議員報酬より	¥900,000
その他（注1）	¥4,000
合計（1）	¥3,749,675
支出	
家屋費（イベント会場含）	¥226,536
光熱費	¥20,473
通信費	¥19,202
印刷費	¥37,320
備品費	¥0
消耗品費	¥5,839
交通費	¥0
人件費	¥480,900
その他（注2）	¥44,033
合計（2）	¥834,303
次月繰越（1）-（2）	¥2,915,372

神原宏一郎事務所（前向きひろば）

〒560-0021 豊中市本町 3-1-20 エルビル 2 階
TEL&FAX:6854-5664

平日（土・日祝日は除く）の 10 時から 17 時はスタッフがおります。

young_spiritjp@yahoo.co.jp

http://positive-square.sakura.ne.jp/

※この通信物は、政務活動費を使用し発行しています。

発行元 大阪維新の会・無所属議員団（神原所属会派）

〒561-8501 豊中市中桜塚 3-1-1 ☎6858-2525（代表）

- 6日 豊中市原爆パネル展オープニングセレモニー ※
- 7日 豊中つばさ公園「ma-zika」一部開園記念式典 ※
大阪広域水道企業団議員全員協議会・8月臨時会 ※
- 18日 交通インフラ調査特別委員会 傍聴 ※
- 20日 大阪府市議会議長会総会 ※
- 21日 空港問題調査特別委員会 傍聴 ※
- 22日 豊中市・隠岐の島町少年野球親善交流
- 23日 曽根サマーフェスティバル
- 27日 全国市議会議長会研究フォーラム ※
- 28日 全国市議会議長会研究フォーラム ※
- 30日 豊中市・隠岐の島町シニア野球親善交流



2025年9月

- 2日 広報委員会 ※
- 8日 9月定例会 本会議 ※
- 11日 市民福祉常任委員会 傍聴 ※
- 12日 文教常任委員会 傍聴 ※
- 14日 第10回豊中南部フェスティバル ※
- 18日 建設環境常任委員会 傍聴 ※
- 19日 総務常任委員会（神原在籍） ※
- 27日 敬老の集い
- 28日 上野連合自治会定例会
- 29日 9月定例会 本会議 ※
- 30日 9月定例会 本会議（神原個人質問） ※

インフォメーション

明日への架け橋
（前向きサロン）

日時：11月2日（日）

午前：10時～12時

場所：堀田会館2階第1料理室
（阪急バス豊中高校前から徒歩 5 分）

参加費：無料

主催：前向きひろば

参加者皆さまと情報共有・意見交換
出来ればと思っています。
気軽にご参加ください！！

前向きひろば 神原宏一郎 事務所



豊中の未来を描こう！！

発行 2025年 秋号

VOL. 228

「〇〇の秋」
皆さんにとって
秋はどんな
季節ですか？

豊中市議会議員

無所属



かんばらこういちろう

神原宏一郎の
つながり通信

～生活・社会そして人・・・すべては政治とつながっている～

関心・期待感・信頼感を抱く政治へ



9月定例会・個人質問と答弁



①字幕表示システム

～円滑な窓口対応の推進を！！～



Q.聴覚障がいのある方や高齢の方との窓口でのコミュニケーションの現状と課題認識は？

A.聴覚障害の方で手話通訳を希望される方には、各窓口の手話が可能な職員や障害福祉課の手話通訳が対応している。また、大きな声でゆっくり話す、筆談や指差しを交える等の工夫をしているほか、骨伝導イヤホン及び対話支援機器を補助的に使用している。高齢の方にも同様の工夫で対応しており、現在、行っている方法である程度、対応できていると考えている。

Q.日本語での会話が難しい方との窓口でのコミュニケーションの現状と課題認識は？

A.外国人相談窓口英語及び中国語の通訳が常駐し、各窓口での手続きに同行している。他6言語の通訳は予約制。また、100種類を超える言語に対応した携帯型翻訳機の貸し出しも行っている。外国人来庁者が集中した場合には即座の対応が難しい場合があること、翻訳機を的確に活用するには、文章形式で短く区切って話すなどの工夫が必要。

Q.市役所や出張所の窓口で字幕表示システムの導入を検討してはどうか？

A.今後も外国人市民の増加が見込まれるなど、各窓口での対応状況や、デジタル機器の情報を注視しながら窓口サービスの向上に努めていく。



★意見・要望★

筆談対応では、表情を見ながらの会話が困難で、相手の気持ちをくみ取りにくいという課題がある。また、高齢の方や日本語での会話が難しい方の増加が見込まれる中で、手話通訳や言語通訳の人員を増やすことは人材面、財政面から容易なことではない。障がいのある方や日本語でのコミュニケーションに不安を覚える方、さらにデジタル機器の活用が苦手な方等も含めた誰もがデジタル技術の恩恵を享受できる「誰一人取り残されない」デジタル化の実現、窓口での市民サービスの向上を図るため、字幕表示システムの導入や活用を前向きに検討して欲しい！！



個人質問の全容はホームページをご覧ください。

http://positive-square.sakura.ne.jp/

皆さまのご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

メールアドレス：young_spiritjp@yahoo.co.jp



9月定例会・個人質問と答弁

②搾乳マーク

～母親1人でも気軽に使える授乳室に！！～



- Q. 搾乳に対する社会的な知識や理解を深めると共に、安心して搾乳できる環境整備を進めるべきではないか？
- A. 厚生労働省は、出産した女性が安心して職場復帰し、働き続けることができるよう、事業主に対し、搾乳できるスペースの確保を推奨している。搾乳を行うことができずに体調を崩すことの無いよう、職場等において衛生的で落ち着いて搾乳できる環境は必要であると考えている。
- Q. 神奈川県は昨年10月に全国で初めて、母親が赤ちゃんと一緒になくても授乳室で搾乳しやすくなるように『搾乳マーク』を導入した。本市でも搾乳マークを作成し、公共施設の授乳室等に掲示してはどうか？
- A. 本市本庁舎において、授乳室やベビーケアルーム『mamaro（ママロ）』に掲示している。今後、他の市有施設の授乳室等についても、掲示に向け、関係部局と調整を進めていく。
- Q. 民間事業者にも搾乳マークを周知し、搾乳マークの掲示や搾乳できるスペースの確保を推奨してはどうか？
- A. 民間就学前施設に設置している『赤ちゃんの駅』への搾乳マークの掲示についても、調整を進めていく。また、本市では地域で子育て家庭を支え、こどもたちが元気に安心して暮らせる環境づくりを推進するため、子育て世帯に対するサービスなどを提供している事業者や団体を『とよなか子育て応援団』として登録していることから、まずは当該登録事業者に対する情報提供等を行っていく。

★意見・要望★

女性の社会進出が促進され、共働き世帯が増加傾向にある中で、女性が働きやすい環境を作ることがより一層、求められており、出産した女性が安心して職場復帰し、働き続けることができるよう、事業者による職場等での衛生的で落ち着いて搾乳できるスペースの確保等の取り組みが進むなど、搾乳に対する社会的な知識や理解の醸成や環境の整備が促進されるよう、様々な機会や手法を通じて、周知、啓発に努めて欲しい！！



③終活支援

～誰もが安心して人生の最期を迎えられるように！！～

- Q. 市民が終活を行うことや、自治体が市民の終活を支援することの意義や必要性に対する市の見解は？
- A. 本人の思いや希望を家族や関係者と共有し、人生の最終段階における意思決定支援や尊厳ある生き方を実現するための重要事項の一つと捉えている。また、死後における様々な手続き等の負担を軽減するだけでなく、終活を通じて地域の相談支援機関などにつながることで、地域全体で支え合う地域共生社会の実現にも資するものと考えている。
- Q. 現在、市が行っている終活支援に対する評価と課題認識は？
- A. 現在、本市では、『エンディングノート』の普及啓発を行っており、市民向け講座や配布を通じて、本人の希望や情報を整理する機会を提供している。また、将来の医療やケアについて、家族や医療・介護の関係者と話し合う『ACP（アドバンス・ケア・プランニング）』の普及に努めている。これらの取り組みは、認知度の向上とともに、身寄りのない方への支援の強化が今後の課題と認識している。
- Q. 以前の定例会で、「ひとり暮らし高齢者の見守り支援に関する事業において、対象者の約81%が未登録で、改善の余地がある」との答弁があったが、ひとり暮らし高齢者の登録状況は改善されたのか？
- A. 現在、65歳以上単身者約3万9千人中、名簿登録者は約5千600人（対象者の約14.5%）であり、高齢者の増加に登録者が追い付いていない。登録制度は本人の意思に基づく任意の制度のため、登録率が低い傾向にある。昨年度は『地域包括支援センター』などを紹介したリーフレットを作成し、要介護認定を受けていない85歳のひとり暮らし高齢者約1000人に送付するなど情報提供を行った。また、市公式LINEのセグメント配信なども行い、必要な情報がいきわたるよう周知啓発に取り組んでいる。

Q. 他市で実施されている『終活情報登録制度』とは？

- A. 本人の希望に基づき、葬儀、納骨、財産処分、連絡先などをあらかじめ登録し、本人が意識障害や死亡した場合に、関係機関や支援者等の特定の者からの照会に対して、その情報を開示し、本人の意向に沿った手続きにつなげる制度。
- Q. 終活情報登録制度や、身寄りのない一人暮らしの方が葬儀費用をあらかじめ納めることで基本的な葬送を行ってもらえる『エンディングプラン・サポート事業』等の実施を検討してはどうか？
- A. 横須賀市などで実施されている『エンディングプラン・サポート事業』や『終活情報登録伝達事業』は、身寄りのない方や高齢者の尊厳ある最期を支える現在の社会課題にあった先進的な取り組みと評価している。現在、本市でもこれらの制度の導入に向け、他市の事例調査や大阪司法書士会との意見交換を行い、制度設計や運用体制の検討を行っている。今後は、国の地域共生社会の在り方検討会議における議論や、日常生活自立支援事業の改正案なども踏まえながら、より実効性のある支援体制の構築を検討していく。

★意見・要望★

高齢化の進行やひとり暮らしの高齢者の増加は今後も見込まれており、他の自治体で実施されている終活情報登録制度やエンディングプラン・サポート事業の実施を前向きに検討する等、より一層、市民の終活支援に取り組み、高齢者の孤独死の防止や、誰もが安心して有意義に過ごせる環境整備、孤独死等に伴う行政の財政負担や行政職員の業務負担の軽減など、地域社会の福祉と安全の維持、向上に努めて欲しい！！

④リバースピッチ

～新たな課題の発見と課題の明確化を！！～



Q. 豊中版リバースピッチを実施しての評価は？

- A. 市との接点の少ない業種を含めて、多種多様な民間企業と接点を持つ機会になった。参加した民間事業者・課題提案部局の双方に高評価を得るとともに、ピッチ後、民間企業側から交流会の場や担当部署への情報提供を通じ、様々な魅力的な提案も寄せられており、『リバースピッチ』については、地域課題解決に繋がるきっかけの一つとして、貴重な機会・ツールになると考えている。
- (注) リバースピッチは事業者が行政に課題の解決策を提案する形とは逆に、行政が事業者に課題を発信し、解決策を求めるもの
- Q. 具体的に市からはどのような課題を発信し、事業者からはどのような解決策が提案されたのか？
- A. 学びの多様な学校における産学連携の課題に対し、竹を用いたものづくり、プログラミングを用いたゲーム作り等の体験学習の提案があった。また、ペットの飼い主が入院や死亡した際の預かりや譲渡先を確保する支援の課題に対し、デジタルを活用し飼い主とボランティアやセカンドオーナーをつなぐ管理システム構築の提案があった。
- Q. 解決策が提案された事業と、リバースピッチ自体の今後の展開は？
- A. 解決策を提案頂くなど、今回接点を持つことができた事業者の方々とは、継続的に繋がりを保ちながら、市として課題解決に向けての検討や事業化を進めていく。リバースピッチについては、参加した民間企業のニーズも踏まえながら、共に課題解決に取り組もうとする事業者との繋がりをつくり、現状を打開するような発想や手法を知る機会・ツールとして、ブラッシュアップと効果検証を行いながら継続していきたい。

★意見・要望★

多種多様な事業者が多数参加され、新たな民間企業との接点が生まれたこと、市の課題発信に対し、様々な魅力的な提案があるなど、行政の課題解決につながる可能性が広がったこと、さらには、市職員の方々のプレゼンやコミュニケーション能力を高める経験や機会の創出ができたことなど、大いに効果があったと評価する。今後、しっかりと効果検証を行いながら、より洗練されたリバースピッチが行われ、少しでも多くの行政課題の解決につなげて欲しい！！